

6月2日(火)から、特別展「開館50周年 超・名品展」(6/2~6/7)、コレクション展、Ando Galleryを再開します。

【開館時間】午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで) ※月曜日は休館(祝休日の場合は開館、翌日が休館)
特別展の観覧には、事前予約をお願いいたします。

対応の詳細につきましては、当館の公式Webサイト(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)をご覧ください。
周知にご協力いただきますようお願い申し上げます。

尚、取材をご希望の方は、ご希望日の3日前までにご連絡いただきますようお願いいたします。来場者の安全な鑑賞環境を優先するため、ご希望に添えない場合もございます。予めご了承ください。

「開館50周年 超・名品展」

当館の前身である兵庫県立近代美術館は現在の原田の森ギャラリーの場所で、1970年に開館しました。以来、節目の折に名作展、名画展、秀作展、などと銘打って記念展を開催してきました。開館から50年を迎えるにあたり、これらの続編として本展を開催します。時間の経過とともに変化する評価のあり方、私たちと名品の関係に目を向けながら、当館収蔵品もまじえて、各地の主要美術館から借用した作品100点を展示します。

【会期】 6月2日(火)～6月7日(日)
【観覧料】 一般 1,300円、大学生 900円、70歳以上 650円、障がいのある方(一般 300円、大学生 200円)、高校生以下 無料

【主催】兵庫県立美術館、神戸新聞社、毎日新聞社 【後援】公益財団法人伊藤文化財団、一般財団法人みなと銀行文化振興財団
【特別協力】公益財団法人日本教育公務員弘済会 兵庫支部 【助成】一般財団法人安藤忠雄文化財団



「開館50周年 超・名品展」展示風景

2020年コレクション展 | 「【特集】動く！美術—動きはどう表現されてきたか—」

「特集」では、美術の中の「動き」に着目します。動き回る人物や動物、多様性に満ちた自然の営み—本来「動かない」美術においてこれらの動きはどのようにとらえられているのでしょうか。絵画や立体作品における「動き」の表現について考えます。そのほか、館所蔵の版画、彫刻、洋画、日本画も展示、「小磯良平記念室」「金山平三記念室」での展示もあわせ、当館の多彩なコレクションを紹介します。

【会期】 6月2日(火)～9月22日(火・祝) ※展示替期間[6月29日～7月10日]は休室します
【観覧料】 一般 500円、大学生 400円、70歳以上 250円、障がいのある方 100円、高校生以下 無料

【主催】兵庫県立美術館 【協賛】公益財団法人伊藤文化財団、サンシティタワー神戸(株式会社ハーフ・センチュリー・モア)



藪内佐斗司《犬モ歩ケバ》1989年

Ando Gallery (安藤忠雄コーナー)

安藤忠雄氏の作品模型やドローイングなどを展示しています。震災復興のためのプロジェクト、さらに現在取り組んでいる最新プロジェクトも紹介します。

【観覧料】 無料

新たにご覧いただける作品が
エントランスホールの大階段に設置されました。

【設置日】 5月26日(火)
【作家名】 新宮晋(しんぐう・すすむ)
【作品名】 《オーロラⅢ》2018年、《オーロラⅣ》2018-2020年
* サイズ(各): φ250cm×H350cm
* 材質(各): ステンレス、アルミニウム、アクリル絵具、ポリエステル布



お問い合わせ先

兵庫県立美術館
広報担当: 細田・村上・有田

〒651-0073
兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903
Email: press@artm.pref.hyogo.jp